

令和 2 年 度

学 校 教 育 計 画



大阪府立りんくう翔南高等学校

目 次

	頁
第1 学校教育活動の方針	2
(1) 学習指導の方針	2
(2) 特別活動の方針	8
(3) 道徳教育及び生徒指導の方針	10
(4) 進路指導の方針	12
(5) 人権尊重の教育の方針	13
(6) 健康・安全管理と指導の方針	14
(7) 学校運営の方針	16
(8) 教員の研修方針・研修計画	16
第2 校務分掌等	
(1) 校務分担	17
(2) 学年主任・ホームルーム担任一覧表	19
(3) 生徒会活動・クラブ部員数・部顧問一覧表	20

第1 学校教育活動の方針

(1) 学習指導の方針

- 未来を力強く生き抜く、強くて思いやりのある人材を育成し、地域に信頼され、誇りとされる学校を目指す。
 - 確かな学力を携えて、主体的に自己実現と社会に貢献できる人材を育成する。
 - グローバルな視点からの情報収集、分析力を高め、計画的なチャレンジ精神を育む。
 - 思いやりのある心豊かな人材を育成する。
 - 社会構成員としての自覚（ボランティア精神、美化意識、規範意識、多様性、協働性）を育み、未来の創り手となる人材を育成する。
 - 社会的・経済的格差を乗り越える支援を積極的に行う。
 - 学びを人生や社会生活に活かせるよう、早期にキャリアを展望させ、生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力の育成をめざし、主体的・対話的・深い学びの視点からの授業改善に取り組む。
- ① 学習意欲の向上と基礎学力の充実を図り、学習環境の整備に努める。また定期考査前に学習態度観察期間を設け、全教員で生徒一人ひとりの学力の実態を的確に把握し、課題のある場合は学年全体が連携した指導を実施する。これにより生徒の学習意欲を喚起するとともに、学習習慣の確立と基礎学力の定着をはかる。
 - ② 安全・安心な学校をめざし、防災訓練を通じて意識を向上させるとともに、一斉配信システムや安否確認システムの充実を図る。
 - ③ 生徒の希望する進路に向けて可能性を引き出すように努める。そのために、進路指導部による基礎学力の定期的な測定（教育産業による学力分析システムの活用）をもとに、進路指導部と学級担任が協力して積極的なキャリア教育を推進する。
 - ④ 定期考査前補習や進学希望者補習の実施と、教育産業との連携による特講（進学講習）や夏期自主勉強講座を充実させ、自己実現に向けて確かな学力の育成をめざす。
 - ⑤ 教科ごとの達成目標等を設定し、毎年その成果を検証する。
 - ⑥ 本校生徒に適合した主体的・対話的で深い学びの方法を導入し、生徒の主体性を養うとともに、協働して課題を解決する能力を高める。
 - ⑦ 活動記録シート（ポートフォリオ）やキャリアパスポートを積極的に活用し、来るべき大学入試改革に備える。
 - ⑧ グローバル人材育成のため、国際理解教育を積極的に推進し、多様性を許容する意識を育む。
 - ⑨ ICTを活用した教育活動を充実させる。

● **各教科の方針**

【 国 語 科 】

[本年度の課題]

- ・言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通じて、的確に理解し効果的に表現する能力を育成する。
- ・国語を適切に表現し、正確に理解するための基礎的な能力の育成をめざす。
- ・古典に親しみ、日本の文化や伝統に対する教養を身につける。

(1) 本年度の達成目標

- ①常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書けるように、漢字学習に力を入れる。
- ②文章を正確に読み取ることができるように、語彙量を増やす。
- ③自分の考えを、言葉や文章で表現できるようにする。
- ④古文・漢文の基礎を学び、古典の楽しさを味わう。

(2) 目標到達のための方策

- ①基礎学力の充実及び家庭学習習慣の定着
 - ・漢字問題集及び漢字ノート、漢字問題集附属のトレーニングノートを利用し、1行書き練習を行っている。その反復練習で常用漢字の読み書きの定着を図る。また、定期的に課題をこなすことで、家庭学習の習慣を付ける。
- ②読解力の育成
 - ・教科書を中心に、様々なジャンルの作品を読むことで、読解力や論理的思考力を高める。
 - (ア) 表現力の育成
 - ・教材の感想や要約、創作等を行う。
 - (イ) 古典の基礎学習
 - ・生徒に親しみやすい教材を精選し、古典・漢文に対する抵抗感をなくし、親しみを持たせる。
- ③古典文法の基礎を学習する。
 - ・古典文法のワークを演習し、基礎力を高める。

【 社 会 科 (地歴・公民) 】

[本年度の課題]

- ・社会的な見方・考え方を働かせ、生きる力を育むよう、学問的な内容だけでなく、今後の人生という長期的な視点を意識し、実生活で役立つ知識や技能が習得できるように、授業を工夫する。
- ・生徒が自主的・主体的に学ぶように、授業を工夫する。

(1) 本年度の達成目標

- ①生きる力の基礎となる基礎学力及び社会生活を営むうえでの基礎的知識を身につけさせる。
- ②広い視野に立ち、多様な観点で物事を捉え、その中で自らの判断にもとづき行動できる自律的・主体的人間に育てる。
- ③地歴・公民の両分野にわたり、地域の一員としての自覚をもったうえで、国際人としての幅広い教養を身につける教育をめざす。

(2) 目標達成のための方策

- ・一方的に講義をする授業にならないように、グループワークやペアワークなどの学び合いの機

会を積極的に設け、作業の時間を採り入れる。

- ・生徒にとって身近で日常的な内容や話題を積極的にとり入れる。
- ・特に公民分野では世界で起こっているニュースが、自分たちの生活と密接に結び ついていることを理解できるよう新聞その他のメディアを活用する。
- ・大きなイラスト図版や地図の掛け軸のほかに、教室に備え付けられているディスプレイや電子黒板などの ICT 機器を効果的に活用し、生徒の学習意欲を高め、身の回りの地域を理解し、国際的な感覚を深める。

【 数 学 科 】

[本年度の課題]

- ・数学的活動を通じて、数学的な見方・考え方を養い論理的に考える能力を育成する。
- ・1年生の数学Ⅰでは1クラス2展開の習熟度別少人数授業を行い、基礎学力の充実を図る。
- ・看護医療及び理系を中心に進学する生徒への応用力を高め、入試に対応する力を養成する。
- ・生徒が主体的に学習できるような環境づくりに努め、生徒の論理的思考力を高める。

(1) 本年度の達成目標

基礎的な学力の定着を主な目標として定めるとともに、受験科目として数学が必要な生徒に対しては選択科目あるいはコース必修科目として設定し、受験に対応するための応用的な力を育てることで、基礎から応用まで生徒のニーズに応じた幅広い指導を行う。また、数学的活動を通して物事に対する論理的思考力を高める。

(2) 目標達成のための具体的方策

- ① 提出物等により常に生徒の理解度の把握に努め、授業に反映する。
- ② 数学Ⅰを習熟度別に展開して実施することすることで数学が得意な生徒には演習、数学が苦手な生徒には個別対応や説明を重視し、個に応じた対応を行う。
- ③ 理解不十分な生徒への補習や進学希望生徒への講習を放課後に実施し、きめ細やかな指導を行う。

【 理 科 】

[本年度の課題]

自然科学の見方・考え方を働かせ、探求方法を習得させるとともに、環境問題や倫理的な問題について考える。また、最近、多発している自然災害についても考察させ、防災意識を高める。

(1) 本年度の達成目標

理科の見方・考え方（基本的な法則や概念）を理解させ、身近な話題と関連させて考える。他者の意見も聞いたうえで自分の意見をもち、発表する。

(2) 目標達成のための方策

- ① 「確かな学力」育成のため、基礎・基本を重視し指導方法や評価方法を工夫する。
- ② 生徒が考えやすいように身近な話題・ニュースなどを取り上げる。その際、生徒に考える機会を設けるとともに、自ら学ぶ機会を設ける。
- ③ ICTなどを活用し、生徒に理解しやすい授業を心掛ける。

【 保 健 体 育 科 】

[本年度の課題]

- ・体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決を図ることを通して、心身の一体化を意識する。
- ・各種目の指導による、技能・運動能力の習得、体力の増強はもとより、他の教科・科目では関わりにくい「集団行動」などの指導により、挨拶などの基本的生活習慣や、積極的に授業に取り組む態度を育成し、本校の教育目標・教育方針の達成を支援する。
- ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上をめざし、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育成する。

(1) 本年度の達成目標

・体育

本年度は【地域に根ざした体育指導者や、リーダーのための素養を身につける】を到達目標とし、次代を担う知力・人権感覚に富むたくましい人材の育成をめざすとともに、すべての種目に共通する基礎的な技能・知識を習得し、あらたな事柄を学ぶための精神・態度・基礎体力を身につける。また、本年度は、保健体育科全員で1年生の実技を担当するため、挨拶等の基本的生活習慣に対する指導を丁寧に行う。

・保健

現在の自然環境、社会情勢などの変化・問題点などをふまえた中で、健康の意義を正しく理解し、安全で快適なライフスタイルを確立するための基本的な考え方を学ぶ。

(2) 目標達成のための方策

- ① 集合・整列などの集団行動を実施し、礼儀作法を確実に身に着けるとともに、正しい服装・準備物など、授業への準備を確実にし、授業内容の充実をめざす。
- ② 準備体操、ランニングなど身体の準備のしかたを正しく学び、傷害防止に努めるとともに、基礎体力の向上をめざす。
- ③ 全員で取り組むことで、ルールやマナーを守り、協力して責任を果たす社会生活の基礎を学び、人権感覚を育てる。

【 芸 術 科 】

[本年度の課題]

- ・芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術文化と豊かにかかわる能力を育成する。
- ・発表や展示等を目標として設定し、生徒各自が主体的に取り組み、達成感が得られるように指導する。

(1) 本年度の達成目標

生徒の能力・適性に応じて領域ごとに学習すべき事項を系統的に組織し、芸術的な能力を伸ばし、創造性に富む個性豊かな人間の形成をめざす。又、表現力と鑑賞力を養い、生徒各自が主体的に取り組めるように指導する。

(2) 目標達成のための方策

- ①生徒とのコミュニケーションを適宜行い、生徒各自が自主的に取り組めるようにサポートする。
- ②発表や鑑賞の場を設定し、芸術活動を通して、感受性と創造性を養う。
- ③生涯を通して、芸術を楽しみ愛好する心情を育む。

【 英 語 科 】

[本年度の課題]

- ・英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、聞くこと・読むこと・話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの5領域を統合した授業を行い、特に英語を「聞くこと」「話すこと」に対して消極的な生徒への指導に力を入れる。
- ・語彙力が不足し、基本的な文法の習得があいまいな生徒への指導を強化する。

(1) 本年度の達成目標

- ・ALTとの英会話の授業で英語に対する積極的な姿勢を養う。
- ・中学校で学ぶ文法の復習に加え、さらに発展的な文法事項を定着させる。
- ・英語が苦手な生徒の学習状況を把握し、学習内容が理解できるよう手助けをすると共に、意欲のある生徒が手ごたえを感じられるよう学力を伸ばす指導の工夫をする。

(2) 目標達成のための方策

- ・英語表現Ⅰ（2単位）では1クラス2展開の少人数授業を実施し、5領域（特に「聞くこと」「話すこと」）の言語活動をさせる。（文法と英会話1時間ずつの授業）英会話ではALTと直接話せるチャンスなので、できる限り日本語を使わず生の英語にふれて興味・関心を喚起するようプリント教材を工夫する。文法の授業では中学校の復習から始め、少人数授業の利点を活かしてプリント教材も使用しながらきめ細やかな指導で発展的な内容へスムーズに移行できるよう努める。
- ・コミュニケーション英語（3単位）では音声教材を活用し新出単語や本文を繰り返し聴かせ、また声を出してリピートさせることでリスニング・スピーキングの力を養成する。
- ・補習・講習を実施し、基礎学力の保障・更なる英語力の向上をめざす。
- ・3年生自由選択科目（2単位）（コミュニケーション英語Ⅲ）において、週1回ALTとの授業を実施する。
- ・英語でのプレゼンテーションを行う等、英語運用能力の向上をめざす。
- ・英語の学習意欲向上をねらい、実用英語技能検定の受験を促すとともに、2次面接試験を見据えたスピーキングの練習を行う。

【 家 庭 科 】

[本年度の課題]

- ・実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に家庭生活に関わり、また、よりよい社会の構築に向けて貢献できる能力を培う。
- ・基本的な知識や技能を習得し、実習や実験をとおして達成感を味わい、自己の能力に気づき、学びたいという意欲を高め、表現力を養う指導を行う。

(1) 本年度の達成目標

- ① 基本的知識や技能を身につけさせる。
- ② 生徒それぞれの身近な問題に気づき、解決しようとする意欲を育てる。

(2) 目標達成のための方策

- ① 実験・実習を取り入れ、基本的な技能を身につけさせる。その際、学習のねらいを明確にし、何を学ぶのかを意識させる。
- ② 様々な情報を取り入れ、身近な問題であることを認識し、さらに、自分の問題として考えるよう指導する。
- ③ 作品製作については、全員完成するように指導する（場合によっては補習を実施する）。

【 情 報 科 】

[本年度の課題]

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報機器を利用して「文章を作成する」、「表計算する」、「情報発信する」などの基本的な操作能力を身につけ、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術の活用方法を学び、その力が定着するよう指導する。また情報モラルの育成にも力を入れる。

(1) 本年度の達成目標

- ①ワープロソフトウェアを使い、正しいビジネス文書を作成する。その際、技術だけではなく、文書の構造・敬意表現・漢字に関する知識も同時に身につける。
- ②表計算ソフトを使い、計算し、情報を処理する能力を養う。同時に、その背景にある経済活動も学ぶ。
- ③プレゼンテーションソフトウェアを使い、情報発信するための知識を養う。同時に、正しいプレゼンの仕方、プレゼンの聞き方も身につける。
- ④情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解する。
- ⑤情報リテラシーを高め、SNSの適切な使用方法や、トラブルや犯罪に巻き込まれないための方法を学ぶ。

(2) 目標達成のための方策

- ・実習を伴う授業はT Tで行い、教科書のための枠にとらわれずに、実際に学んだ知識や身につけた技術を生かすために、年間を通して日本語ワープロ検定・情報処理検定（表計算）の内容を取り入れ、校内で検定試験を実施する。また、テーマを与え、調べ物学習をし、それを発表する機会を設けてプレゼンテーションの練習をする。
- ・情報モラル育成のため、教材用DVDの鑑賞、ネットワーク犯罪の実例紹介、アンケート調査などを行う。

【 福 祉 科 】

[本年度の課題]

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく福祉マインドを持った社会人としての育成をめざす。

(1) 本年度の達成目標

- ①社会福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、社会構造の変容やライフスタイルの変化が社会福祉の進展にどのような影響を及ぼしているかを考える力を身につける。
- ②現代社会における社会福祉の意義や役割などについて理解し、社会福祉に関する基本的な考え方を身につけるとともに、ノーマライゼーションやユニバーサルデザイン、インクルージョンなど、様々な考え方を理解し身につける。

(2) 目標達成のための方策

- ・「社会福祉基礎」で社会福祉の基本的な考え方や技術・知識を習得し、「介護実習」によって現場の取組みについて学ぶ。
- ・学習面ではICT機器を活用して、自ら調べ、考える時間を授業内に設定する。

(2) 特別活動の方針

- 週 1 回、木曜日第 6 限にロングホームルームを行い、生徒同士が自主的に意見発表をし、他人とともに共生する豊かな心を育成する。
- 生徒会活動を通して、組織の中での調整能力やコミュニケーション能力を高めるとともにリーダーシップの育成をめざす。
- 部活動を通して、個性の伸長と自主的自立的な生活態度を養うとともに集団生活の意義を考えさせる。

①ホームルーム

ホームルーム活動を通じて、いじめを生み出さないために、子ども一人ひとりが違いを認め合い、お互いを尊重し合う人間関係に基づいた集団作りをめざす。

(ア) ショートホームルーム

毎日授業開始前 10 分間、授業終了後 5 分間行う。

出欠点検、諸注意、諸連絡、生徒の身だしなみと心身の健康状況の把握等。

(イ) ロングホームルーム

毎週木曜日第 6 時限に年間・月間計画表に基づいて行う。ロングホームルームは「総合的な学習（探究）の時間」と有機的に連携させつつ、生徒の希望や意見を尊重し、担任の創意を生かして実施する。生徒会や学年ホームルーム係はこれを援助し、集約しつつ全体的な立場でホームルーム構成員の温かい人間関係の醸成を図る。

(運営方法)

- ・ 生徒会から議題が出る時は、生徒会部の教員が学年ホームルーム係の教員に連絡し、各学級担任及びホームルーム委員に伝達する。
- ・ 記録簿には結論だけでなく賛成・反対意見・討議の結果・反省など、できるだけ詳しく書き、毎月 1 回ホームルーム係の教員に提出する。

②生徒会活動

(ア) 学校内だけでなく、地域でも自発的、自律的に活動する生徒会活動を積極的に支援する。

(イ) ホームルーム活動、部活動、学校行事、ボランティア等の活動に企画、実施、参加の面で学校内のリーダーシップを発揮するよう指導援助する。

③部活動

(ア) 地域の中学校との連携を強化し、働き方改革も加味しつつ、部活動への参加を奨励し、活性化を進める。

(イ) 生徒の自主性を重んじながらも、適切な計画と指導を行う。

(ウ) 運動部について危険防止に配慮する。

(エ) 部活動にあっては、適切なコーチングで効率的なトレーニングを心がける。

ロングホームルーム年間計画

	1 学 年	2 学 年	3 学 年
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・前期クラス役員選挙 ・人間関係（いじめ未然防止） ・1学期 HR 計画 ・人権 HR ・進路 HR ・クラス討議 生徒会の前期の方針について ・選択科目ガイダンス ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期クラス役員選挙 ・人間関係（いじめ未然防止） ・クラス開き ・1学期 HR 計画 ・人権 HR ・クラス討議 生徒会の前期の方針について ・修学旅行事前学習 HR ・選択科目ガイダンス ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期クラス役員選挙 ・人間関係（いじめ未然防止） ・1学期 HR 計画 ・人権 HR ・進路 HR ・卒業アルバムへの取組み ・クラス討議 生徒会の前期の方針について ・その他
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期 HR 計画 ・文化祭の準備 ・体育祭の準備 ・人権 HR ・進路 HR ・後期クラス役員選挙 ・クラス討議 生徒会の後期の方針について ・レクリエーション ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期 HR 計画 ・文化祭の準備 ・体育祭の準備 ・修学旅行事前学習 HR ・人権 HR ・進路 HR ・後期クラス役員選挙 ・クラス討議 生徒会の後期の方針について ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期 HR 計画 ・文化祭の準備 ・体育祭の準備 ・人権 HR（多文化共生） ・進路 HR ・後期クラス役員選挙 ・クラス討議 ・レクリエーション ・卒業アルバムへの取組み ・マナーについて ・その他
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期 HR 計画 ・進路 HR ・クラス討議 年間の反省、その他 ・レクリエーション ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期 HR 計画 ・進路 HR ・クラス討議 年間の反省、その他 ・レクリエーション ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期 HR 計画 ・クラス討議 高校生活の反省と卒業後の心がまえ ・卒業式の準備と参加

(3) 道徳教育及び生徒指導の方針

- 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活に生かし、思いやる心豊かな人材を育成する。
- 伝統と文化を尊重し、民主的な学校の形成者として、公共の精神と他国の文化を尊び、社会の発展に努め、国際社会の発展と環境の保全に貢献し、未来を拓く主体性のある社会構成員としての自覚を持った人格の育成に努める。また、他者の価値観を尊重し、ともに学ぶ姿勢を醸成する。
- 教育目標、校訓、教育方針の達成を支援し、充実した高校生活を過ごせるよう、家庭・地域と連携・協力して生徒の倫理観を高め、人生に対する前向きな態度を育成する。
- 積極的な生徒指導（カウンセリングマインドを持ちつつ未然防止に努める）を徹底し、規範意識を醸成する。

1. 多様性と生命の尊重にむけた教育の展開

- ① 人との関わり、集団や社会との関わり、生命や自然、崇高な者との関わりに関する道徳的な価値観についての理解を基にしつつ、自他の人格や他者の文化を尊重するとともに、多様性を認めたいうでの規律ある生活や、生命を尊重する心、未来を拓く主体性のある社会構成員としての自覚を持った人材の育成に努める。

2. 授業に集中できる環境づくり

- ① 私物の整理整頓及び、教室や学校などの環境の美化に努め、学習する環境づくりを積極的に行い、授業に集中する意識を育てる。
- ② 遅刻や身だしなみなど、社会構成員として必要な規範意識を育み、授業への準備、気持ちの切り替え、集中力の高揚を図る。

3. 規律ある生活態度の指導

① 服装頭髪指導

制服を正しく着用し、身だしなみを整える等社会生活で必要なマナーを意識させる。

② 遅刻指導

時間を守らせ、社会構成員としての自覚を促す。

③ 駐輪指導及び登校下校指導・広域生徒指導

通学方法の把握と通学マナーの指導などを通し、社会構成員としての責任と自覚を促す。

4. 家庭及び関係諸機関との連携

- ① SNS上の誹謗中傷をはじめとする人権侵害事象や、薬物乱用等を含め高校生の陥り易い問題行動や犯罪の防止のため、ホームルームや集会など機会をとらえ注意を喚起するとともに、保護者、地域の関係諸機関との連携を密にし、情報交換に努める。
- ② 「いじめ」は子供の将来にわたって内面を深く傷つけるものであり、子どもの健全な成長に影響を及ぼす、まさに人権にかかわる重大な問題であることを絶えず意識し、防止対策として、授業時間や休憩の別なく小さな変化を見逃さず、生徒の状況・実態把握及び情報交換に努める。また、ホームルーム活動や「総合的な探究の時間」、集会、授業など全教育活動を通して人権感覚を醸成するとともに「いじめ防止対策委員会」の活性化を図り、事象が発生した時は組織として対応し、被害生徒や保護者はもとより、加害生徒や保護者にも寄り添う体制を整える。
- ③ 問題の発生を未然に防ぐため、全ての生徒の把握に努め、教員相互の情報交換を計画的に実施するとともに、教職員全員がカウンセリングマインドを持って生徒理解に努め、「心の健康」に

- 留意し、個々の生徒の人格形成と心の成長を手助けできるよう教育相談に積極的にいかかわる体制を整える。また、関係諸機関（スクールカウンセラー等）と協働することで万全を期する。
- ④常に生徒の小さな変化を見逃さず、家庭との連携を密にする。
- ⑤市町村の要保護児童等対策協議会等地域の関係諸機関と積極的に連携し、虐待を許さない学校づくりをめざす。
- ⑥保護者懇談会や、成績懇談会・進路説明会と必要に応じて保護者との懇談や家庭訪問を有効に利用して、生徒の実態及び指導に関する情報の共有を図る。

年 間 指 導 計 画 表

学期	行 事 と 指 導 事 項
1 学期	新入生のオリエンテーション ホームルームの年間指導計画書 学生支援機構及び授業料減免希望者調査 家庭状況調査、通学状況調査 HR 担任と個人面接 ・ 所持品の記名徹底 自転車指導 ・ 登下校指導（交通安全指導） ・ 遅刻指導 服装・頭髪指導服装 ・ 身だしなみ指導 ・ 避難訓練 薬物乱用防止教室 ・ 喫煙防止教室 余暇指導 ・ 夏休みの心得 ・ 家庭通信 校外指導対策と実施 ・ 地域清掃 ・ 広域生徒指導
夏休み	・ 家庭連絡強化 ・ 個性伸長と余暇善用指導
2 学期	夏休み中の生活の反省 自転車指導 ・ 登下校指導（交通安全指導） ・ 遅刻指導 服装・頭髪指導服装 ・ 身だしなみ指導 ・ 避難訓練 学校行事への自主的協力 ・ 防災避難指導 ・ 交通安全指導（講座） 学習態度の反省とその指導 ・ 民主的品性と遵法精神の指導 冬休みの心得 ・ 地域清掃・広域生徒指導 ・ 家庭通信
冬休み	・ 家庭連携強化
3 学期	冬休み中の生活の反省 自転車指導 ・ 登下校指導（交通安全指導） ・ 遅刻指導 服装・頭髪指導服装 ・ 身だしなみ指導 春休みの心得 ・ 年間指導反省 ・ 家庭通信

(4) 進路指導の方針

方針

- 生徒が自己をみつめ、その適性を知り、広い視野をもって、主体的に進路実現できるよう指導する。
- 生徒それぞれの進路実現にむけて、的確な情報を提供し、自己実現できるように支援する。

取組み

- ① 1年より継続した学力定着度の測定を行い、生徒各自が自己の現状を知るとともに目標の設定を行えるようにする。
- ② 基礎力診断テスト（基礎学力の定期的測定）を行い、積極的なキャリア教育に結びつける。
- ③ 活動記録シートやキャリアパスポート等を活用して、主体的に取り組み、目標を達成する力や進路実現につなげる力を身につける。
- ④ 就職面では、公共職業安定所などとの連携を密にし、求人確保に努める。進路に関する人権教育にも留意して指導する。公務員希望者への講習案内や情報提供などにも努める。
- ⑤ 進学面では、多様化する入試選抜方法や奨学金などの説明会等によりさまざまな情報を提供し、主体的に進路実現できるように努める。また特講（進学講座）等の充実により、学力向上を図る。
- ⑥ 多方面の意見を収集し、進路実現のためのより実効性のある進路指導の確立に努める。
- ⑦ 自己実現をめざし、教育産業を含む外部関係諸機関との連携を密にする。

年次別のねらいと指導計画

- 1年・・・高校生活における目標を設定し、将来の自己の姿を描く
- 2年・・・進路実現にむけ、主体的に情報を得るとともに、進路希望を具体化する
- 3年・・・生徒各自の希望進路を実現させる

	1 年	2 年	3 年
1 学期	進路HR 基礎力診断テスト 大学・短大・専門学校資料配布会 分野別説明会（仮称）	進路HR 基礎力診断テスト 大学・短大・専門学校資料配布会 看護体験	進路HR 進路別説明会 基礎力診断テスト 進学希望者模試 大学・短大・専門学校資料配布会 奨学金説明会 進路別指導（説明会・面接練習等）
2 学期	基礎力診断テスト 進路HR 進路ガイダンス 職業講話	基礎力診断テスト 進路HR 学校別進路説明会	応募前職場見学 就職講座 進学者向面接練習 進学希望者模試 面接練習（就職・進学）
3 学期	基礎力診断テスト 進路HR 進学希望者向模試	基礎力診断テスト 進路HR 進学希望者向模試 オープンキャンパス等への参加指導	進路HR 就職内定生徒の指導
全学年・進路情報の整備と提供 ・進路相談（進路指導室の活用） ・キャリアパスポートへの記録			

(5) 人権尊重の教育の方針

- ・生徒の自尊心や自己効力感、自己肯定感を養う。生徒の自主性を引き出す。生徒同士の学びあいの機会を作る。前年度の実施内容を踏まえた系統的な人権教育計画であるとともに、昨今社会的事象として問題になっているものを取り上げていきたい。
- ・差別につながる発言をていねいに取り上げて指導するとともに、未然防止につとめ、問題に関する認識を少しでも深める学習を行う。
- ・自分の考えを伝え、他者の考えを聞く機会を大事にする。各取り組みにおいて振り返りを通して自分の考えをまとめるとともに、仲間の感想や意見を共有し、共感や自分とは違う視点や考えを知ったり発見したりする機会とする。

第1学年人権教育計画

実施予定	形 式	内 容	備 考
1 学期	HR 活動	・ 学校生活と人権に関するアンケート	
2 学期	HR 活動	・ 同和問題学習 ・ 喫煙防止教育講習会（生徒保健部との共催 体育館） ・ LGBT 講演会（講師 真道ゴーさん 体育館）	
3 学期	HR 活動	・ 障がい者理解「パラスポーツ」	

第2学年人権教育計画

実施予定	形 式	内 容	備 考
2 学期	HR 活動	・ 障がい者理解講演会（講師 嵯峨根 望さん 体育館） ・ 同和問題学習 ・ 人権啓発の標語を作る（「泉南市人権啓発標語」） ・ 薬物乱用防止教室（生徒保健部との共催）	
3 学期	HR 活動	・ 認知症サポート講座(泉南市地域包括センター)	

第3学年人権教育計画

実施予定	形 式	内 容	備 考
1 学期	HR 活動	・ 近畿統一応募用紙について	
2 学期	HR 活動	・ 性に関する講習会(保健部との共催、体育館使用) ・ 「命の大切さを考える」 犯罪被害者の声を聞く	

(6) 健康・安全管理と指導の方針

◎本年度の重点目標

- 全教職員の共通理解のもとに、健康管理や指導を徹底する。
- 疾病の早期発見・早期治療と健康診断の事後措置を徹底する。
- 学校保健委員会を開催し、保護者、学校医、保健医療機関との十分な連携を図る。
- 心身共に健康に学校生活を送れるよう健康相談活動の充実を図る。
- スクールカウンセラーと連携し、教育相談活動（特別支援教育含む）の充実を図る。
- 学校環境の実態を把握し、その整備・改善に努める。
- 防災訓練やメール配信サービス・安否確認ツールを充実させ、安全教育、安全管理を徹底し、災害・事故防止に努める。
- 新型コロナウイルス感染症のまん延に備え、感染防止対策に万全を期するとともに、子どもたちの心身の状態をチェックし、スクールカウンセラーとの連携を強化して対応する。
- 災害発生を想定した緊急物資の備蓄の充実を図る。
- 安全衛生委員会を開催し、産業医と十分な連携を図り、労働環境の改善に努める。

【 学校保健計画 】

区分 学期	学校保健 関連行事	保健管理		保健教育		組織活動
		対人管理	対物管理	保健学習	保健指導	
1	定期健康診断 臨時健康診断 避難訓練 学校保健委員会 大掃除 保健 HR	○保健調査 ○定期健康診断 ○健康診断事後措置 ○健康相談・ 歯科相談 ○新型コロナウイルス感染防止に係る啓発 (学校医による指導助言)	○清掃用具整備 ○清掃分担割当 ○施設等安全点検 ○教室の美化点検 ○大掃除 ○ワックスがけ (1、2年生) ○水質検査 (プール、飲料水) ○空気検査 ○教室の換気と消毒の徹底(学校医による指導助言)	○科目[保健] 各学年授業	○生徒保健委員会 ○保健だより発行 ○環境美化、衛生活動 ○防災避難訓練 ○救急講習会 ○薬物乱用防止教室(2年生)	○職員生徒保健部会 ○定期健康診断実施 ○避難訓練実施 ○学校保健委員会開催 ○大掃除実施 ○安全点検修繕 ○保健 HR 実施
2	体育祭 翔南祭 避難訓練 修学旅行 学校保健委員会 通学路清掃 大掃除 保健 HR	○文化祭関連保健衛生管理 ○修学旅行前健診 ○健康相談・ 歯科相談 ○新型コロナウイルス感染防止に係る啓発 (学校医による指導助言)	○ダニ、アレルゲン検査 ○清掃用具整備 ○清掃分担割当 ○施設等安全点検 ○教室の美化点検 ○大掃除 ○水質検査(飲料水) ○照度検査 ○教室の換気と消毒の徹底(学校医による指導助言)	○科目[保健] 各学年授業	○生徒保健委員会 ○保健だより発行 ○環境美化、衛生活動 ○文化祭における衛生指導 ○防災避難訓練 ○性に関する講習会(3年生) ○喫煙防止教育講習会(1年生)	○職員生徒保健部会 ○避難訓練実施 ○学校保健委員会開催 ○通学路清掃実施 ○大掃除実施 ○安全点検修繕 ○保健 HR 実施
3	臨時健康診断 学校保健計画の評価と反省 新年度の計画	○クラブ合宿前健診 ○健康相談・ 歯科相談	○清掃用具整備 ○施設等安全点検 ○教室の美化点検 ○ワックスがけ(3年) ○空気検査	○科目[保健] 各学年授業	○生徒保健委員会 ○保健だより発行 ○環境美化、衛生活動	○職員生徒保健部会 ○安全点検修繕 ○総括次年度計画

【 学校安全計画 】

区分 学期	学校安全 関連行事	安全管理		安全教育		組織活動
		対人管理	対物管理	安全学習	安全指導	
1	避難訓練 校外学習 救急講習会 安全衛生委 員会 安全点検 交通安全指 導 夏休みの諸 注意	<ul style="list-style-type: none"> ○通学状況調査 ○救急体制の確立 ○防災体制の確立 ○避難訓練(火災)の徹底 ○登下校指導 ○自転車規則の徹底 ○校外学習安全対策 ○授業時安全対策(体育、理科実験、家庭科実習等) ○長期休業前の安全生活指導 ○感染防止の為の啓発(産業医による指導助言) 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校環境の安全整備 ○自転車置き場施設整備 ○防災設備の点検・整備 ○校内設備の安全点検・整備 ○普通教室、特別教室の安全点検・整備 ○校舎内外の危険箇所点検・整備 ○校舎をはじめとする学習環境の消毒(産業医による指導助言) 	<ul style="list-style-type: none"> ○科目 【保健体育】 【家庭科】 他実験実習を伴う教科、各学年、授業 	<ul style="list-style-type: none"> ○登下校指導 ○クラブ活動における安全指導 ○課外活動における安全指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○春の交通安全運動 ○登下校指導 ○小中高連絡会 ○安全に係る広報活動 ○校外補導・危険箇所巡視 ○安全衛生委員会開催
2	体育祭 翔南祭 避難訓練 修学旅行 安全衛生委 員会 安全点検 通学路清掃 冬休みの諸 注意	<ul style="list-style-type: none"> ○体育祭安全対策 ○文化祭安全対策 ○避難訓練(地震)の徹底 ○修学旅行安全対策 ○登下校指導 ○授業時の安全見直し ○冬休み前の安全生活指導 ○自転車規則の徹底 ○感染防止の為の啓発(産業医による指導助言) 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育祭使用の設備・器具の安全点検・整備 ○学校環境の安全整備 ○防災設備の点検・整備 ○校内設備の安全点検・整備 ○普通教室、特別教室の安全点検・整備 ○校舎内外の危険箇所点検・整備 ○文化祭使用施設・機材・器具の安全点検・整備 ○校舎をはじめとする学習環境の消毒(産業医による指導助言) 	<ul style="list-style-type: none"> ○科目 【保健体育】 【家庭科】 他実験実習を伴う教科 各学年 授業 	<ul style="list-style-type: none"> ○登下校指導 ○クラブ活動における安全指導 ○課外活動における安全指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○秋の交通安全運動 ○登下校指導 ○小中高連絡会 ○安全に係る広報活動 ○校外補導・危険箇所巡視 ○安全衛生委員会開催 ○年末の交通安全運動
3	安全衛生委 員会 安全点検 春休みの諸 注意 学校安全計 画の評価と 反省 新年度の計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○授業時安全対策(体育、理科実験、家庭科実習等) ○登下校指導 ○春休み前の安全生活指導 ○通学路の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校環境の安全整備 ○防災設備の点検・整備 ○校内設備の安全点検・整備 ○普通教室、特別教室の安全点検・整備 ○校舎内外の危険箇所点検・整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○科目 【保健体育】 【家庭科】 他実験実習を伴う教科 各学年 授業 	<ul style="list-style-type: none"> ○登下校指導 ○クラブ活動における安全指導 ○課外活動における安全指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○登下校指導 ○小中高連絡会 ○安全衛生委員会開催 ○今年度の活動の評価と反省 ○次年度の計画

(7) 学校運営の方針

- 校長のリーダーシップのもと、一致した学校運営体制を築き、教職員間の共通理解を促進し学習指導や生徒指導にあたるよう心がける。
- 学年や分掌・委員会等の連携とさまざまな事象の調整を行う。また首席は学年・分掌からの情報を収集し、スタッフ会議（令和2年度は月曜3限に）で管理職と校務上の打ち合わせを行う。
※スタッフ会議メンバー：校長、教頭、事務長、首席、養護教諭（保健主事）
- 日常の教育活動の充実に努め、とりわけ授業時数の確保と充実に図り、学校運営協議会からの評価や年3回の授業公開週間を効果的に活用して授業の改善に努める。
- 人権教育の推進を図るため、教職員研修を充実し、人権意識の向上に努める。また、新しい課題について積極的に取り上げるとともに研修成果は必ずフィードバックする。
- 普通科専門コース単一課程として新たな教育活動の円滑な実施に努める。
- 専門コースのハートフルほいくコースの充実・拡大に努める。
- ウェブサイトや学年通信などにより、本校の教育活動とその成果を発信し、開かれた学校づくりをさらに推進する。
- 保護者・地域・様々な専門機関に連携協力し、「チーム翔南」として学校運営を行う。
- ICT機器を有効に活用し、リモート授業の充実に努める。

(8) 教員の研修方針・研修計画

- 教職員の資質向上のため、授業改善を軸に、人権教育、食物アレルギー、インクルーシブ教育システム、教育相談など、必要に応じたテーマで講演会や研修を実施し、学び続ける環境を整える。
- 授業力向上のため、教科の枠を超えての教員相互の授業見学や授業公開を活用する。
- 担任会議・学年団会議の充実と人権教育、生徒指導、学習指導についての研修を充実させる。
- 府教育センター等で行われる各種研修やリモート研修に積極的に参加し、新しい教育情報を入手。さらに校内においてフィードバックし、共通理解を図る。
- 緊急事態に対応できる心構えや技量を身につける。

項目	内容	実施日時
新着任教員研修	校長・教頭・各部長・委員長・学年主任が新任教員のオリエンテーションを行う。また、その後も積極的に各分掌長が相談に応じる体制を整える。	着任時に集中的に実施
教育改革研修	「主体的・対話的・深い学び」の実現を軸に新しい時代の教育活動に役立てる。	夏季休業中および 考査期間中
人権研修	本年度の人権研修計画に基づく研修	夏季休業中および 考査期間中
食物アレルギー対策	学校医による食物アレルギー対応研修	夏季休業中
教育相談事例研修	教育相談手法についての研修 スクールカウンセラーとの連携研修	スクールカウンセラー 訪問時等
救急救命講習会	エピペンやAED操作、心臓マッサージ(胸骨圧迫)の訓練	考査期間中午後
府教委関係研修・協議会参加	教育課程協議会、教科別研修、教職員研修（一括募集） 校務分掌研修等	各研修共オンライン視 聴及び指定された日時
教材・分掌等の研究会参加	各教材等の研究会主催の研修には積極的に参加	各研修共指定 された日時
危機管理に関する研修	あらゆる緊急事態に対処できる体制・動きをめざしての研修と、救急法講習会の開催	2学期まで

第2 校務分掌等

(1) 校務分担

1. 首席
 - ・授業アンケート・道徳教育推進・総合的な学習（探究）の時間統括
 - ・渉外・広報
 - ・各学年、分掌及び委員会の統括と調整・合格者のてびき
 - ・校長表彰・学校運営協議会、PTAとの連携統括
 - ・授業改善（模擬授業の実践）、ICT活用の活性化・地域連携
 - ・インクルーシブ教育推進・防災、安全教育の充実
 - ・学習発表会担当者統括　・同窓会の企画運営
 - ・キャリア教育の充実・国際理解教育の推進　・インクルーシブ教育推進
 - ・防災、安全教育の充実　・生徒主体の学校行事の充実
 - ・その他

2. 教務部
 - 学習活動に関わる事項、教育課程、シラバス、行事予定、自習監督、考査関係、教科書・副読本、コース・教科の選択指導、指導要録、進級・卒業規定、時間割、施設、表簿管理、成績処理、生徒名列表、
 - P T Aに関する事項、内規管理
 - 電子名簿、調査書作成、ウェブページ、メールマガジン、学校図書館、視聴覚・放送機器等維持管理。

3. 進路指導部
 - 進路指導全般に関する事項、進学指導、就職指導
 - 調査書(成績証明書)発行、奨学金等

4. 生徒指導部
 - 生活指導全般の企画運営に関する事項、交通安全指導、集会指導

5. 生徒保健部
 - 生徒健康診断、健康にかかわる講習会、保健指導、環境衛生検査、清掃活動、安全点検、防災避難訓練、スポーツ振興センター関係
 - 生徒会指導、文化祭・体育祭、部活動指導

